

消 防

1. 消 防 力	303
2. 活 動 状 況	304
3. 防 災 対 策	305
4. 消 防 団	307
5. 職 員 ・ 団 員 の 処 遇	307

▶ 桜島火山爆発総合防災訓練



消 防

高齢化の進行，都市形態や生活形態の多様化に伴い，複雑に変化する災害や救急需要の増大に対応するため，各種災害に迅速的確に対応できる消防救助活動体制と救命効果の向上を目指した救急救命体制の充実を図るとともに，火災の防止及び被害の軽減に向けた火災予防対策の充実に努めるなど，安心して暮らせるまちを目指して，市民と連携しながら，総合的な消防・救急対策に取り組んでいる。

平成26年度は，石油コンビナート等の災害現場で消火活動を行う大型化学高所放水車1台及び災害時の情報収集や警戒活動に活用する災害用二輪車3台を導入するとともに，多種多様な災害に備え，各種警防訓練施設を活用した訓練を行い，警防活動能力の向上を図った。また，消防救急デジタル無線の運用を開始するなど，消防通信体制の充実を図った。

救急業務については，救命率の向上と後遺障害の軽減などを目的に救急救命士と医師・看護師が同乗し，救急現場へ向かうドクターカーを導入したほか，松元分遣隊に高規格救急車を配置し，救急救命士による高規格運用を開始するとともに，吉野分遣隊の高規格救急車を更新した。また，救急救命士の技術向上や「気管挿管」及び「薬剤投与」が実施できる救急救命士養成のため，病院実習等を行うとともに，市民に対して，AEDの使用法を含む救命講習の実施に努めるなど，救急救命体制の充実を図った。

また，高齢者を対象とした「火の用心！シルバー教室」を開催するなど，火災予防対策の推進に努めた。

1 消防力

(1) 人員・車輛

(平成27. 4. 1 現在)

消 防 職 員		配 置 車 両	
定数 502人	現員数 500人 うち消防吏員 497人	(ポンプ車・はしご車・救急車) (その他の) (他 緊急自動車) (車 両) 消防署 103台 消防所 8台 消防団 87台 (小型ポンプ) 75台	
消防職員1人に対する		消防(署)ポンプ自動車1台に対する	
人世面	人口帯積	人世面	人口帯積
.....	1,213人	17,785人
.....	545世帯	8,020世帯
.....	1.10km	16.10km

(2) 人員・車輛等内訳

(平成27. 4. 1 現在)

消 防 職 員	人	消 防 車 両 等	台	通 信 施 設	
消防局長(正監)	1	水槽付消防ポンプ車	22	消防緊急通信指令システム	1式
消防司令	4	消防ポンプ車	4	無線 線 設 備	1式
消防司令	22	はしご車	2	緊急通報システム	1式
消防司令	33	屈折はしご車	2	聴覚障害者用ファックシステム	1式
消防司令	57	大型化学高所放水車	1	支援情報システム	1式
消防士	127(2)	化学高所放水車	2	災害状況案内装置	1式
消防副士	114	泡液搬送車	2	安心ネットワーク119システム	1式
消防士	139	水源作業車	1	メール119システム	1式
消防士	3	救助電援車	2	位置情報通知システム	1式
その他の職員	3	照明車	1		
		資機材搬送車	2		
		ミニ消防車・防災車	21		
		指撥車	4		
		救急車	21		
		災害用二輪車	6		
		その他	15		
合計	500	合計	111		

(3) 消防水利

(平成27. 4. 1 現在)

消 火 栓	6,701	防 火 水 槽	930 (40㎡以上530 40㎡未満400)
-------	-------	---------	----------------------------

(4) 職員並びに車両配置状況

(平成27. 4. 1 現在)

区 分	職員	車 両 配 置											
		水 槽 付 ポンプ車	ポンプ車	救 助 工作車	はしご車 (屈折式含む)	大型化学 高所放水車	化学車	救急車	その他	計			
合計	定 数 502	500	22	4	3	4	1	2	21	54	111		
内 消 防 署	消防本部	総務課 警防課 情報管理課 予防課	21 19 18 17							3 2 0 4	3 3 0 4		
	中央消防署	係係係係係 第一係第二係 防防防防防 警警警警警 予予予予予 中中中中中 南南南南南 上上上上上 吉吉吉吉吉 甲甲甲甲甲 桜 島 島	3 2 2 2 6 30 22 12 19(2)	1	1	1	1		1	1	1	0 1 0 2 7 5 2 3 5 3 4 3 3	
			2 2 2 2 6 36 20 14 12 16 16									1 1 4 1 1 1 1 1 1	0 1 0 1 9 3 3 2 3 3
			3 2 2 2 3 36 12 20 12 22 20			1						1	0 1 0 2 11 3 4 4 6 7
			2 2 2 2 3 36 12 20 12 22 20					1				1	
			2 2 2 2 3 36 12 20 12 22 20									1	
			2 2 2 2 3 36 12 20 12 22 20									1	
			2 2 2 2 3 36 12 20 12 22 20									1	
			2 2 2 2 3 36 12 20 12 22 20									1	
			2 2 2 2 3 36 12 20 12 22 20									1	
	西消防署	係係係係係 第一係第二係 防防防防防 警警警警警 予予予予予 西西西西西 伊伊伊伊伊 明明明明明 田田田田田 松松松松松 郡郡郡郡郡	3 2 2 2 2 36 20 14 12 16 16		1	1			2 1 1 1 1 1	1 1 4 1 1 1 1 1	0 1 0 1 9 3 3 2 3 3		
	南消防署	係係係係係 第一係第二係 防防防防防 警警警警警 予予予予予 南南南南南 谷谷谷谷谷 脇脇脇脇脇 郡郡郡郡郡 喜喜喜喜喜	3 2 2 2 3 36 12 20 12 22 20	1		1		1	1 2 1 2 4 2	1 2 6 1 1 2 4 4 2	0 1 0 2 11 3 4 4 6 7		

2 活動状況

※職員（ ）内の数字は再任用職員の数で外数

(1) 最近5カ年の火災状況

区 分	年	22	23	24	25	26
出火件数	建物	130	136	134	107	94
	林野	0	1	0	1	0
	船舶・車両	14	19	17	14	21
	その他	39	59	46	72	45
	計	183	215	197	194	160
り災状況	り災世帯	179	124	136	100	106
	り災人員	353	272	330	231	252
	焼損棟数(全半焼)	29	36	43	35	39
	建物焼損床面積 (㎡)	3,311	3,226	3,981	3,559	3,339
	林野焼損面積 (a)	0	0	0	1	0
損害額(千円)	163,424	219,689	209,858	168,292	207,252	

(2) 原因別出火件数

(平成26年中)

原 因 別	件数	原 因 別	件数
放 火 (疑 い 含 む)	32	焼 却 炉	4
こ ん ろ	27	風 呂 か ま ど	3
た ば こ	14	灯 火	3
電 気 関 係	12	排 気 管	2
た き 火	11	そ の 他	24
火 あ そ び	6	不 明 ・ 調 査 中	18
ス ト ー プ	4	計	160

(3) 予防査察件数

(平成26年度)

対象物 区分	集会場	飲食店 遊技場 キャバレー等	マーケット 百貨店等	ホテル 旅館等	共 同 住宅等	幼稚園 福祉施設 病院等	学 校	美術館 図書館等	浴 場 等	停車場等
	対象物数	253	408	658	99	5,657	1,068	204	17	36
査察延数	210	402	471	159	3,108	1,321	785	20	27	8
査察率(%)	83	99	72	161	55	124	385	118	75	114

対象物 区分	神 社 教会等	工 場 作業場等	倉 庫 駐車場等	事業所 その他	複 合 用 途		文 化 財	アーケード	危 険 物 関 係	計
					イ	ロ				
対象物数	117	944	839	1,269	2,166	3,406	3	14	1,210	18,375
査察延数	91	715	657	995	1,741	1,712	6	7	934	13,369
査察率(%)	78	76	78	78	80	50	200	50	77	73

(4) 救急活動状況

救急車16台 (うち救急救命士運用隊15台) 非常用救急車5台 (平成27.4.1現在)

配置箇所 { 南林寺1台, 上町1台, 吉野1台, 吉田1台, 甲南1台, 桜島東1台,
桜島西1台, 西本署1台, 伊敷1台, 松元1台, 郡山1台, 南本署1台,
谷山北1台, 郡元1台, 喜入1台, ドクターカー1台
(非常用: 西本署1台, 吉野1台, 甲南1台, 谷山北1台, 喜入1台)

救急隊員 98名

活動状況

(平成26年中)

事故種別 区分	出場件数	搬送件数	搬 送 人 員		
			計	男	女
火 災	83	18	19	11	8
自 然 災 害	3	3	3	1	2
水 難	20	13	13	7	6
交 通 事 故	2,209	2,015	2,181	1,270	911
労 働 災 害	189	181	183	162	21
運 動 競 技	180	173	179	134	45
一 般 負 傷	3,520	3,273	3,285	1,467	1,818
加 害	127	111	115	77	38
自 損 行 為	318	229	229	76	153
急 病	15,574	14,257	14,277	7,046	7,231
そ の 他	4,199	3,615	3,619	1,765	1,854
合 計	26,422	23,888	24,103	12,016	12,087

3 防災対策

(1) 警防対策

建築物の構造, 地理水利の状況, 消火・延焼・人命危険等の各要素を消火的見地から総合的に判断し, 火災が発生した場合に人命危険が高く, また, 消防活動上困難が予想される地域等について, 毎年1回以上の現場調査を行い, 予防査察や警防訓練を行うとともに, 防火指導を実施して住民の防火意識の高揚を図っている。

(2) 中高層建築物対策

中高層建築物に対する消防体制として、はしご車4台を三署に配備している。また、建築設計のときから安全避難及び救助その他の消防活動等を有効に確保するための指導を行うとともに、定期的にな中高層建築物調査や警防査察を実施し建物の状況把握に努めている。さらに、消防総合訓練研修センターの高所訓練塔や実地の建物を使用して伸梯訓練や救助訓練等を行うとともに、はしご車等を配置している各署の隊員に対し、はしご車等要員研修を行い、隊員の能力向上を図っている。

4階以上の建築物状況

(平成27.4.1現在)

4階	5階	6階	7階	8階	9階	10階	11階以上	計
2,954	1,991	582	360	300	145	167	264	6,763

(3) 危険物火災対策

危険物火災対策として化学消防車2台、大型化学高所放水車1台、泡原液搬送車2台、資機材搬送車2台と泡放射器材を装備した車両26台の計33台があり、泡原液の保有量は57.96klである。災害規模の大きな非常事態の場合、消防相互応援協定等に基づき、化学消防車および泡原液等を集結させる。これらの危険物施設に対しては積極的に消防演習や訓練を実施するとともに、定期的にな消火薬剤の放射訓練などを行っている。

油槽所別数量表

(平成27.4.1現在)

区 分	種 別	タンク数	数量 (kl)
谷 山 港 一 丁 目	第一石油類	14	39,859
	第二石油類	14	48,232
	第三石油類	11	27,346
浜 町	第二石油類	1	500
	第三石油類	2	1,600
喜 入	第一石油類	61	7,398,027
合 計		103	7,515,564

4 消防団

(1) 消防団員の実員及び報酬

(平成27. 4. 1 現在)

階 級	区 分	定 員	実 員	報 酬 (年額)
団	長	1 人	1 人	86,300円
副 団	長	10	10	68,800
分 団	長	74	72	62,200
副 分 団	長	71	71	40,700
部	長	125	120	38,700
班	長	307	275	37,700
団	員	933	940	36,700
計		1,521	1,489	

そ の 他 報 酬

1 庶務担当者	月額3,200円
2 機関整備担当者	月額3,000円

上記報酬以外に費用弁償として
・水火災、警戒、訓練に従事した場合 1回につき6,400円(軽作業3,200円)

(2) 消防団員の年齢

(平成27. 4. 1 現在)

団員数	18歳以上 20歳未満	20歳以上 25歳未満	25歳以上 30歳未満	30歳以上 35歳未満	35歳以上 40歳未満	40歳以上 45歳未満	45歳以上 50歳未満	50歳以上 55歳未満	55歳以上 60歳未満	60歳以上	平均年齢
1,489	1	16	43	129	184	212	171	171	202	360	49.2歳

(3) 消防団員の勤続年数

(平成27. 4. 1 現在)

団員数	5 年未満	5 年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上	平均勤続 年 数
1,489	327	312	215	178	148	117	192	14.6年

(4) 保有機材

(平成27. 4. 1 現在)

水槽付ポンプ自動車2台, ポンプ自動車18台, 団指令車1台, 小型動力ポンプ積載車64台, ミニ消防車(小型動力ポンプ積込)2台, 小型動力ポンプ9台

5 職員・団員の処遇

(1) 賞じゅつ金等

消防吏員及び団員は、消防業務を遂行するに当たって、危険な場面に遭遇してもその任務を遂行しなければならないが、この職務遂行に当たって、後顧の憂いなく、業務に専念できるようにこの制度が設けられた。職務を遂行したことによって、死亡又は身体に障害が存することとなった場合にこの賞じゅつ金等を支給する。

殉職者特別賞じゅつ金…	1,500万円	
殉職者賞じゅつ金…最高	1,140万円	最低 450万円
障害者賞じゅつ金…最高	900万円	最低 18万円
死亡見舞金…	1,500万円	
障害見舞金…	1,500万円以下	最低 36万円

(注) ①賞じゅつ金支給対象の場合は、見舞金が併給される。

②殉職者特別賞じゅつ金を支給する場合は殉職者及び障害者賞じゅつ金は支給しない。

(2) 団員の退職報償金

国の定める基準に従い消防団員退職報償金条例を制定し支給している。

(平成27. 4. 1 現在)

階 級	勤 務 年 数					
	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
団 長	239,000円	344,000円	459,000円	594,000円	779,000円	979,000円
副 団 長	229,000	329,000	429,000	534,000	709,000	909,000
分 団 長	219,000	318,000	413,000	513,000	659,000	849,000
副 分 団 長	214,000	303,000	388,000	478,000	624,000	809,000
部長及び班長	204,000	283,000	358,000	438,000	564,000	734,000
団 員	200,000	264,000	334,000	409,000	519,000	689,000